

タイトル…『ファニーたい焼きトム47
いちごジャム』

第一幕：開幕！ファニーたい焼き、登場！

場面Ⅰ：「たい焼きトム」開店前の準備

（店内。たい焼き屋『たい焼きトム』の
厨房。トムが新作たい焼きの試作中。魚
住が掃除をしながら不安そうに見守る。）

トム（陽気に）「魚住！ついに考えたぜ、
最高のたい焼きを！」

魚住（ため息）「またですか……。今度
はどんな奇抜な中身なんですか？」

トム（得意げに）「いちごジャムさ！」

魚住「……えっ？それ普通じゃないです
か？」

トム「ノンノンノン！このジャムはスペ
シャルなんだ。シナモンを入れたんだ
よ！」

魚住（興味津々）「シナモン？なんかオ

シャレですね……。」

トム（自信満々に）「絶対ウマイ！想像してみてくれ。アツアツのたい焼きを割ると、中からとろりと甘酸っぱい、真っ赤ないちごジャムがあふれ出す。ほんのり香るシナモンのスパイシーな風味が、いちごの甘さと絡み合い、まるで高級パティスリーの焼きたてスイーツみたいだろ？」

魚住「……とりあえず食べてみないと。」
（魚住、試食する。ジャムが舌に広がる
と、目を見開く。）

魚住「うわっ……これは……朝ごはんにぴったり
の甘さかも！？シナモンの香りが
じわっと広がって、いちごの甘酸っぱさ
と混ざると、まるでモーニングデザー
ト！」

トム（笑いながら）「アリカナシかは、
お客さんが決める！さあ、今日もバカ売

れだ！」

（のれんを上げ、店が開店する。）

第二幕：ファニーたい焼き、炸裂！

場面①：第一波のお客たち

（近所の常連客たちがやってくる。トムがテンション高く新商品を宣伝する。）

トム「ヘイヘイヘーイ！今日のスペシャルは『いちごジャムたい焼き with シナモン』！」

常連客①（サラリーマン）「お、朝のエネルギーチャージに良さそうだな。じゃあ一つ。」

常連客②（女子高生）「たい焼きにシナモン？めっちゃオシャレ！映えそう！」

常連客③（主婦）「シナモン入りなんて紅茶と合いそうね。」

（客たちがたい焼きを食べる。）

常連客 ▶「おお、ジャムがとろっと溢れてくる……甘さもちょうどいいし、朝の朝食代わりになりそうだ。」

常連客 B「うん、これ好き！シナモンの香りがなんかリッチな気分になんてさせてくれる！」

常連客 C「焼きたてのサクサク生地と、温かいジャムのコントラストがたまらないわ！」

（トム、ドヤ顔。）

トム「ほらね？フアニーたい焼きはいつでもみんなをハッピーにするんだ！」

第三幕：さらなる盛り上がり！

（昼下がりに。『たい焼きトム』の店先には、学生や主婦たちが次々と集まってくる。）

（SNSで話題になり、新規客が押し寄せ
ている。）

女子高生 ▶「やばい！めっちゃバズってる！『朝食革命』ってタグまでついてるよ！」

女子高生 ♪「シナモンの香りがすごい上品だって！私も食べてみたい！」

（たい焼きを手に取り、割ると、とろっとした赤いジャムがあふれ出す。）

女子高生 ▶（目を輝かせて）「うわっ……ホカホカの生地にとろーりジャム！これ、朝のパンより贅沢じゃない？」

女子高生 ♪（頬をほころばせながら）「シナモンの香りがすごくいい！甘酸っぱくて、大人っぽい味！」

（近くのベンチでは、主婦たちが紅茶とともにたい焼きを楽しんでいる。）

主婦 ▶「パンの代わりに、こんなたい焼きもありね。朝からスイーツ感覚で食べられるし。」

主婦 B 「焼きたてだから外はカリッと
して、中はトロトロ。これ、ハマる
わ……。」

（次々と売れていくたい焼き。トムは嬉
しそうに腕を組んでいる。）

トム（得意げに）「ほら見ろ！ファニー
たい焼きの時代が来た！」

魚住（驚きながら）「まさかここまで反
響があるとは……！」

第四幕：進化するファニーたい焼き！

（翌日、まだ夜明け前。『たい焼きトム』
の店先には、すでに人々の列ができてい
る。）

（薄暗い街に、たい焼きの焼ける香ばし
い香りが漂う。）

（遠くから新聞配達自転車が走り抜
け、コンビニの明かりがかすかに見え
る。）

魚住（あくびをしながら）「こんな朝早くから並ぶなんて、みんなパン代わりに買うつもりなんですかね……？」

トム（腕組みして満足げに）「その通り！たい焼きがモーニングフードになる日が来るとはな……！」

（店が開くと、客たちが次々とたい焼きを購入していく。）

学生たち（口々に）「おはようございます！今日も朝ごはん、たい焼きで！」

社員 ▶「コンビニでパン買うより、焼きたてのたい焼きのほうが絶対うまい！」

社員 ♪（たい焼きをひとかじりしながら）「甘酸っぱくて、さっぱりしてるのに満足感ある……これ朝にぴったりじゃない！」

主婦 ♪「子どもがすっかり気に入っちゃって、朝食はこれがいいって。」

（人々がたい焼きを啜えながら、急ぎ足で駅に向かっていく。誰もが嬉しそうな表情。）

（通勤・通学の風景が、たい焼きを手にした人々で埋め尽くされる。）

（近くのベンチでは、たい焼きを片手にコーヒーを飲むサラリーマンがいる。）

サラリーマン（満足げに）「朝はコーヒーとパン派だったけど……焼きたてたい焼き、アリだな。」

（さらに、駅前で新聞を読むおじいさんが、いちごジャムたい焼きを半分に割る。）

おじいさん「おお……この香り。焼きたてのパンにも負けんぞ。」

（魚住、そんな光景を見て目を見開く。）

魚住（驚きながら）「なんですか、この
光景……」

トム（笑いながら）「フアニーな朝食革
命ってわけさ！」

（ラスト、空を背景に湯気を立てるたい
焼きのクローズアップ。）

第五幕：大人気メニューへ！

（次の日の朝。店内は落ち着いている。
カウンター席でトムが優雅にたい焼きを
食べながら珈琲を飲んでいる。）

（カップからは湯気が立ちのぼり、ゆっ
たりとしたクラシック音楽が店内に流れ
る。）

トム（ため息混じりに）「やっぱり、朝
はご飯がいいなあ……。」

（その瞬間、魚住が大きな音を立ててカ
ウンターを叩く。）

魚住（怒り混じりに）「あんたが言うな
ー！！」

（トムがコーヒーを吹き出しそうにな
る。）

（店の前には新メニューの予告看板が立
っている。）

看板の文字『次回予告：カレークリーム
たい焼き！？』

（魚住、看板を見て青ざめるが、どこか
期待した表情も浮かべる。）

（トム、ニヤリと笑う。）

（カメラがゆっくり引いていき、賑わう
『たい焼きトム』の店先が映し出され
る。）

（エンドロールへ。）